

2007/03/30

1月22日放映のTBS「朝ズバッ」での不二家関連報道に関する問題について

株式会社 不二家
信頼回復対策会議

1 TBS「朝ズバッ」における不二家報道

同番組は、人気司会者みのもんたが主演するニュース情報番組で、月曜日～金曜日の朝5時30分～8時30分の間放映されている（このほか、同様の内容の番組「サタズバッ」が土曜日午前5時45～7時30分に放映されている）。

同番組では、1月11日に、不二家の消費期限切れ牛乳の原料使用問題が報じられた後の1月12日以降、連日、長時間にわたって、不二家の問題を取り上げ、主演のみのもんたが、不二家を批判・非難する発言を繰り返していた。

2 1月22日の「チョコレート再利用疑惑」報道の内容

1月22日の同番組において、午前7時7分から約5分間、「新証言 不二家の“チョコ再利用”疑惑」題して、インタビュー証言を含むVTRによる報道（以下、「本件報道」という。）を行った。

〔VTRの内容〕

まず、アナウンサーの「消費期限問題に揺れ続ける不二家ですが、朝ズバッ！宛に元従業員から電話があり、信じられない新たな疑惑が浮上しました」との発言の後、「顔なし映像」で、「情報提供者」が「それをまた溶かして。でまた。製造しなおすっていうことがあったので」「『絶対にばらすなよ』とは言われていたんですけど」と話している場面が映し出される。

続いて、「情報提供者は、先日、ガの幼虫や卵が混入したチョコレートを製造していた不二家平塚工場の元従業員、彼女によれば。賞味期限が切れたチョコレートの包装をしなおしたり、溶かし直して再利用していた、というのです。」とのアナウンスが入った後、また「顔なし映像」に変わり、同じ「情報提供者」が、「はじめは、じゃあ全部が賞味期限だからゴミ箱の方に入れていたら、怒られて、「パッケージに、一つひとつにラベルがあって、そこに製造日と賞味期限が書いてあるってことなので」「それをもう一度パッケージをしなおすために裸にして欲しいんだって言われて」と答えている場面が映し出される。

それを受けて、「平塚工場では、日常的に、捨てなければならない商品の包装を付け替え、再利用していた、と言います。」「更に、驚くべきことに」とのアナウンスの後、再び「情報提供者の」「顔なし映像」に変わり、「もう一回溶かして、一から製造しなおすってことなんですけど」「あの賞味期限が切れて店舗から売れ残った商品を、あの、またあの、引き、引き受けて」と言った後に、最初の「それをまた溶かして、でまた、製造しなおすっていうことがあったので」という話が再び流される。

これらの「証言」を受けて、「期限切れのチョコレートを溶かし直して再製し、新品として出荷していたというのです」この2件について不二家本社は『確認が取れていない』としていますが、情報提供者と同時期に働いていた別の人物も、同様の証言をしており、疑惑は深まるばかりです」というアナウンスが流れて、VTRが終わる。

[スタジオでのやり取り]

このVTRが終わったと同時に、みのもんた氏が「もう、信じられません。生クリームを使ったショートケーキに端を発して、すべての製品にこういうことがある」「元パートの職員が、その複数の職員が証言しています」と言った後、それまでの「証言」を総括する形で、大きな円形の鍋のような設備の周りにはマスクをした従業員が原料や牛乳を入れてチョコレートを溶解している模様を書いた絵を示しながら、「まず、賞味期限が切れちゃったチョコレートを集めてきて開封しちゃう。中身を出して、賞味期限の切れたチョコレートと牛乳を混ぜ合わせ、いいですか、混ぜ合わせて、新しい製品として再出荷しちゃう」と、チョコレートの再利用の方法を説明する。

その後、みの氏が、スタジオの出演者に、不二家のチョコレート再利用に対する意見を求め、大澤弁護士が「犯罪的だ」などと言ったり、TBSの杉尾解説委員が「誰の指示でやったのか、そのあたりも含めて調べなければいけないと思いますよ」と言ったりした後、みの氏が、「帳簿を閲覧しなさい」とか「上場会社ですから、上場責任を大変なことだ」などと発言し、このコーナーが終了する。

3 報道内容の虚偽性、捏造の疑い

(本件報道に関しては、不二家側が放映直後からTBSに対して事実と反する報道であると抗議し、同番組の担当プロデューサーのA氏及び同番組の月曜担当プロデューサーのB氏との間で交渉を繰り返してきたほか、不二家信頼回復対策会議においても、TBSコンプライアンス室長C氏及び上記A、B氏から説明を受けるなどした。本番組に対するTBS側の説明及び主張は、不二家側とTBS側との交渉の記録及び信頼回復対策会議が説明を受けた結果によるものである。)

(1) 報道内容の客観的な誤り

ア 「チョコレートと牛乳を混ぜ合わせ」

製造工程で発生した成型不良品などを溶解して再利用することはチョコレート工場において一般的に行われている。しかし、その際も、チョコレートを牛乳で溶解するということはあり得ない。

(TBS側も、「チョコレートと牛乳を混ぜ合わせた」との報道が虚偽であったことは当初から認めているが、虚偽の内容を報道した理由については、「『牛乳を混ぜ合わせた』との証言は虚偽であったが他に信用できる根拠があった」と述べたり、「『牛乳のようなものを混ぜた』と証言している」と述べたり、一貫しない。)

イ チョコレートを溶解している状況の説明図

平塚工場におけるチョコレートの溶解は、2メートル以上の高さの密閉されたタンクで行われる。原料の注入はパイプを通して行われるものであり、番組で使われたチョコレート溶解についての図が事実と異なることは明らかである。

(TBS側は、チョコレートの溶解の方法について「元従業員」の証言を得て同説明図を作成したと一貫して主張していたが、説明図で大きな鍋のような開放された機械に人が直接原

料を投入しているように表現している点が事実と異なっていることについては、B氏が「視聴者がわかりやすいように私が書いた」と図の捏造を認めるかのような発言をしている。）

(2) 小売店から回収したチョコレートを再利用すること自体の不合理性

平塚工場では、過去に製造過程で生じた「成型不良のチョコレート」を溶解して再成型していたことがあったことは不二家側も、番組放映前の1月20日にTBS側が事実確認を行ってきた段階から明確に説明している(説明を受けたことをTBS側も認めている。)。 「成型不良のチョコレート」は工場内で発生するものであり、再成型して利用することに十分に経済的メリットがある。しかし、本件報道で報道された「賞味期限切れのチョコレートを小売店から回収して再利用する」という行為を仮に行うとすれば、小売店からの回収、搬送のコストに加えて、工場内での包装を除去するコストまでかかり、原料の節約コストを大きく上回る。企業活動の経済合理性という観点からも、そのようなことを企業として行うことは考えられない。

(この点に関する疑問について、TBS側は、「あり得ないことがあったから問題にしているのだ」と述べている。)

(3) 不二家側コメントの内容の虚偽性

番組中では、「確認が取れていない」との不二家のコメントが紹介されているが、TBSから不二家に対しては、1月20日の午後4時30分に、平塚工場で働いていた女性からの情報提供について、「返品されてきたチョコレートを再び溶かして使用していた」、「カントリーマアムについて、賞味期限が切れていたのを捨てようとしたら上司に怒られ、それを再度新しいパッケージに入れて製品としていた」との2点について質問する電話があった。電話を受けた社員のYは、関係者に事実確認をした上、午後6時30分ごろ、Yについては、「工場が発生した成型不良品を溶かして作り直していることはあるが返品を使うことはない」、Yについては「平塚工場ではカントリーマアムは作っていない」と回答したことが、不二家側の電話対応メモ(「電話対応記入表」・・・別紙1)に記載されている。

この点について、TBS側は、「Yへの電話の後、再度不二家に電話し、Yが不在だったために広報の別の男性に伝言し、『当時働いていた違う方からも同様の証言があるのですが』とYに伝えてほしい旨頼んだところ、調べて回答するので待つて欲しいと言われ、翌21日の朝に、同じ男性から電話で回答があって『いま確認作業をしているがまだ分からない。もし放送するならば、調査中とは言わずに、確認が出来ていない。と表現して欲しい。』と言われた」。

しかし、TBSから事実確認の電話を受けたYは、関係者に事実確認をした後に、返品されたチョコレートを溶かして利用した事実はないと明確に事実を否定し、成型不良品を溶かして作り直すことはあることまで説明している。それなのに、再度電話をして事実確認をすること自体、常識的には考えられないことであり、また、Yの電話対応に関しては電話メモが残っているのに、その後の電話のやり取りに関しては不二家側にはメモは全く残っておらず、TBS側でも、「電話をかけた担当者が、相手の名前を聞いたが失念してしまい。メモも取っていない」とのことであり、これらの電話のやり取りが本当にあったとは認めがたい。

仮に、TBS側が言うとおりの電話のやり取りがあったとしても、不二家側が事実確認の上明確に「返品されたチョコレートの再利用」の事実を否定しているのであるから、その後

の「確認が取れていない」との追加コメントが仮にあったとしても、不二家側が同事実を否定していることを明確に報道すべきである。

(4) カントリーマアムに関する証言をチョコレートに関する証言に流用した疑い

上記(3)で述べたとおり、1月20日のY宛の電話の際、「**カントリーマアムについて、賞味期限が切れていたのを捨てようとしたら上司に怒られ、それを再度新しいパッケージに入れて製品としていた**」との事実について確認を求めた事実があり(電話対応記入表)。TBS側は、B氏の不二家宛の連絡文書(別紙2)の中で、1月20日のY宛の電話の内容が上記のとおりであった旨明確に認めている上、A氏は、不二家側との話合いの中で、カントリーマアムについて同様の内容の証言映像が存在している旨明確に述べている。しかし、平塚工場でカントリーマアムを製造した事実は全くない。

一方、本件報道中のVTRでは、「不二家平塚工場の元従業員、彼女によれば、賞味期限が切れたチョコレートの包装をしなおしたり、溶かし直して再利用していた」というアナウンスに続いて、「顔なし映像」の女性が「**賞味期限だからゴミ箱の方に入れていたら、怒られて」「それをもう一度パッケージをしなおすために裸にして欲しいんだって言われて**」と話している模様が放映されている。

放映された証言内容が、TBS側が証言映像の存在を認めている「カントリーマアムの再利用・再包装についての証言」の内容と酷似していること、同証言映像が放映されていないことからすると、カントリーマアムについて再利用・再包装したとの証言映像を録画したTBS側が、不二家側にその事実確認を行ったが、平塚工場ではカントリーマアムの製造を行っていないと回答されて、その証言が虚偽であったことがわかり、それを、平塚工場で製造しているチョコレートの再利用・再包装に関する証言にすり替えてインタビュー映像を捏造した疑いがある。

(5) その他

TBS側は、不二家側との話合いの中で、最近になって、本件報道における「元従業員」と称する女性の証言は、90年代前半の平塚工場に関するものであり、そのことは、インタビュー当時から同人が述べていたが、証言者の特定につながることから、時期を特定しないで報道した旨述べている。

しかし、本件報道で指摘している「賞味期限切れチョコレート再利用疑惑」が最近の事実を意味していることは、「平塚工場では、日常的に」というVTR中の言葉などから明らかである。また、同番組でのそれ以前の「顔なし映像インタビュー」の取扱いを見ると、1月18日放映の番組では「10年前に埼玉工場アルバイトしていた男性」の「カビが生える寸前のスポンジにスプレーがけして製品化したり、手袋をつけないで素手で作業していた」との証言が放映され、1月19日には、「1年前裾野工場働いていた元従業員」による「(工場に電灯が)設置してあって(虫が)入ってきていた」との証言、「9年前関東地方のあるFC店でアルバイトしていた女性」の「消費期限切れシュークリーム改造して180円で販売していた」との証言、「15年前中部地方のあるFC店でアルバイトしていた女性」が「消費期限の表示を除光液で消していた」との証言が、それぞれ放映されている。これらが古い時期のものも含めて、すべて時期が明示されていることとの比較からも、何ら時期を特定していな

い本件報道が、最近の事実に関するものであることは明らかである。

「元従業員」はインタビュー時には最近のここのように話していたが、不二家側から虚偽報道の抗議を受けたことから、その時期を遡らせてきた可能性も考えられる。

4 本件報道の翌日の「朝ズバッ」における「みの発言」

本件報道の当日、不二家では櫻井新社長が就任し、記者会見で不二家再生に向けての決意を述べた。

翌1月23日の「朝ズバッ」では、この櫻井新社長の会見の様を取り上げ、みの氏が、「はっきりいわせていただければ、古くなったチョコを集めてきて、それを溶かして新しい製品に作り直すような会社は、もうはっきり言って、廃業してもらいたい。こんなばかなことをやっている不二家が、そのまま社長が交代したからといってね、メーカーとして存続していること事態おかしい。」などと発言しながら、櫻井社長の顔写真に、罰印の形で2枚のプレートを貼り付けるなどした。

5 総括

本件報道は、現時点でTBS側が認めている範囲でも、事実を歪曲した部分が多くある上、上記3(4)のカントリーマアムに関する証言のチョコレートに関する証言への流用・捏造の疑いは、本件報道全体が、悪質な捏造報道であったとの疑念を生じさせかねない重大な問題である。同報道が、翌日のみの氏の櫻井社長及び不二家に対する非難発言と相まって、不二家に営業上重大な損失を与える結果を招いたことは明白である。

不二家信頼回復対策会議では、今回の問題による不二家の信頼失墜の原因について調査する中で、その一つの要因となったTBS「朝ズバッ」の報道に関する問題についても可能な限りの調査を行った。しかしながら、TBS関係者が「証言者の特定につながる」として証言内容の重要部分を秘匿しているため、これ以上の調査を行うことは困難である。

TBSにおいて、第三者による調査委員会を組織するなどして、自主的に本件報道に関する真実を解明する必要があるものと思料する。

No. _____

電話応対記入表

平成19年1月

受付日	受付時間	対応者
平成17年 1月 20日 (土)	開始 16時 30分 ~ 終了 16時 35分	[Redacted]
会社名(マスコミ名)	記者名	マスコミ電話/FAX
<input type="checkbox"/> 新聞 部	[Redacted]	電話: () FAX: ()
<input checked="" type="checkbox"/> TBS テレビ放送 部	[Redacted]	電話: [Redacted] FAX: [Redacted]
<input type="checkbox"/> その他()		電話: [Redacted] FAX: ()
問い合わせ・質問の内容		
「平塚工場で働いている」という女性からの情報提供の事実確認		
<p>(提供情報内容) 労働時間短縮について、口頭で確認は済ませた。</p> <p>① 通知された「ワーク-タイム」が「使用」されている。</p> <p>② BA について、賞味期限が「ワーク-タイム」の「中」として「2」に記入し、さらに「ワーク-タイム」に入力し、</p>		
答えた内容		
<p>① 工場内の発生した「ワーク-タイム」について、</p> <p>② 商品の使用について、</p>		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;"> OK </div>		

一夜寝る

製造から
の事で
品質と

品質と

平塚工場

済

平成19年3月24日

株式会社 不二家
広報室
経営企画部

TBSテレビ 制作局制作四部
「みのもんた朝ズバッ！」

「みのもんた朝ズバッ！」1月22日放送分について

大変お世話になっております。昨日は電話にて失礼致しました。明日は15時にお伺い致しますので、どうぞよろしくお願い致します。

つきましては、御社からの昨日の回答を踏まえた上で、弊社からの質問等を改めて整理させて頂きました。ご査収の程、よろしくお願い申し上げます。

記

私どもは、放送後に弊社からのご指摘を受け、証言者らの供述内容や事実関係等の調査・確認作業を進めております。それは私どもの放送内容を正当化するための作業ではなく、内容が正しいのかどうかを確かめるための作業です。そして、その作業を進めるためには御社からの詳しい情報開示がどうしても必要です。何卒ご協力の程よろしくお願い致します。

①御社からのご指摘である「パッケージに製造日と賞味期限が書いてあるので・・・」という証言内容などの信憑性を検証するための材料としてお聞き致します。

1. 御社で表示している「ロット番号」とは何を表すものなのでしょうか。
2. ロット番号を見ることにより製品の「製造時期」は分かる仕組みなのでしょうか。
3. ロット番号表示はいつから、どのように行っているのでしょうか。
4. チョコレートの「製造年月日」表示及び「賞味期限」表示は、いつからどのように始められたのでしょうか。
5. 「製造年月日」または「賞味期限」と「ロット番号」の併記の可能性はあったのでしょうか。
6. 個々の製品の「製造時期」はどのように把握されているのでしょうか。
7. チョコレートの「賞味期限」表示の基準はどのように定められているのでしょうか。
8. 「賞味期限」を過ぎてから「廃棄処分」となるまでの基準と製品の流れはどのようになっているのでしょうか。 (現在と相違があるならば過去の基準も)

②御社からのご指摘である「そのチョコに牛乳などを加えて混ぜる」ことについてですが、証言者の供述はあくまで「正規」の処理ではなく、「不正規」に行われた処理を前提に証言されていることを踏まえた上で検証の材料にするためにお聞き致します。

1. チョコレートを正規に再処理する場合に何かを混ぜることはないのでしょうか。

2. 乳製品（例えば、粉乳など）を加えて再処理するといったことはないのでしょうか。
3. 一般的にチョコレートを製造する上で牛乳を混ぜることはないのでしょうか。

③放送前に行われた御社と弊社のやり取りの確認です。再度、ご担当者様にご確認下さい。

1. (TBS) 1月20日夜に初めて電話、広報の[]に2つの質問をした。
 - ・返却したチョコレートを再び溶かして使用していたのか？
 - ・カントリーマアムについて消費期限が切れたので捨てようとしたら上司に怒られた。それを再度新しいパッケージに入れて製品としていた。

⇒ (不二家) あとで調べて回答するとのこと

2. (不二家) 同日、広報の[]から電話で回答があった。
 - ・小売店から返却された商品を使用していた事実はないが、工場内で発生した成型不良を使っていることはあった。
 - ・平塚工場でカントリーマアムは生産していない。

3. (TBS) 同日、再度不二家に電話。

(不二家) []が不在だったため、広報の別の男性に伝言

(TBS) 「当時働いていた違う方からも同様の証言があるのですが？」

⇒ (不二家) []に伝え、調べて回答するので待つて欲しいとのこと

4. 1月21日の朝。

(不二家) ③と同じ男性から電話で回答があった。

「いま確認作業をしているがまだ分からない。もし放送するならば、調査中とは言わずに、確認が出来ていない。と表現して欲しい。」と指示を受けた。

(TBS) それを了解し、翌日の番組では「不二家本社では確認が取れていない」という内容で放送した。

④以前から[]お聞きしていた件と、改めてお聞きしたいことです。(証言者の供述と照らし合わせるための材料と致します。)

1. 現在は「物流倉庫での廃棄」をされているということですが、その流通経路の運用開始時期と物流倉庫の場所などを詳しく教えて頂けませんでしょうか。
2. 証言は現在の話ではないためお聞きしますが、過去に遡っても平塚工場での「賞味期限切れ」及び「成型不良」製品の回収、廃棄、再処理は1度もなかったのでしょうか。
3. 当時を知る平塚工場関係者の方数名に事情を聞くとおっしゃられていましたが、その後どのようにになりましたでしょうか。
4. 「成型不良」の製品を再処理することはあるとのことですが、「成型不良」製品を決める基準と再処理の方法を教えてくださいませんか。
5. 小売店で発生した「賞味期限切れ」及び「成型不良」製品はどのように回収されるのでしょうか。
6. 平塚工場で作られていたチョコレートの銘柄を教えてくださいませんか。(過去も含めて)

以上、再度ご確認の程よろしくお願い申し上げます。